



一般社団法人 tenten
団体概要

2022年4月版

目次

はじめに	1
転入女性の現状・人数&悩み	2
ビジョン・ミッション、事業概要	3
事業概要詳細	4~7
ロジックモデル	8~9
サンプルストーリー	10~12

はじめに

友達もいない、知り合いもない、土地勘もない。知らない土地に住むのは楽しみでもありますが、不安も募ります。私は石川県出身。国家公務員として東京で就職し、その後結婚を機に退職し、福島県へ転入したのが平成19年。夫の仕事の関係で県内転勤をこれまで4回経験し、一番初めに住んだのが南会津町でした。転入したばかりの私の状況を表す言葉は「孤独」と「焦り」。

誰一人として知り合いがおらず孤独そのものでした。

ペーパードライバーだった私は一人で遠出する勇気もなく、毎日家とスーパーの往復。話す相手は夫だけという日々が続きました。また、次にいつ転勤になるか分からない状況では定職に就くことができず、働きたい、何かをやりたいという思いを実現することができず、これからどうしたらいいだろうと、とにかく焦っていました。

しかし、あるご夫婦との出会いをきっかけに、地域の方との交流の機会を作っていただき、夫を介さない自分の知り合いができ、居場所ができたことで、私にとって南会津町は特別な場所となりました、南会津町を離れて10年以上たった今でも交流は続いています。

福島には私以外にも、結婚やパートナーの転勤で転入された女性がたくさんいます。

そういった方に、私が南会津で出会ったご夫婦のような地域と架け橋となるサポートがあれば、福島を好きになってくれる女性が増えるはずですよ。

また転入女性の中には、高いスキルや経歴、働きたいという意欲があるにも関わらず、一旦キャリアをリセットしたことや子育てなどの理由で、その思いを実現できていない方もたくさんいます。

一億総活躍、女性活躍が謳われる中、そういった女性達でも活躍できる多様な働き方の選択肢を増やすことが必要だと切に感じています。

福島で地域や社会と繋がり、自分らしくいきいきと生活する。そんな女性が増えれば間違いなく福島は元気になります。

転入女性自身には「福島に来てよかった」と、地域の人からは「あの人が福島に来てくれて良かった」という言葉がたくさん聞こえる福島となることを願い、今はまだ眠っている女性達の力を引き出し、地域とwin-winの関係を構築していきます。

代表理事 藤本 菜月

プロフィール

1980年石川県小松市生まれ。名古屋大学農学部の果樹園芸学ゼミで桃の葉について研究。卒業後、農林水産省で4年9か月勤務。農業改良資金、経営構造改善事業、農地法関連業務、国際協力業務等に携わる。

結婚を機に退職し、福島県へ移住。福島県職員の夫についてこれまで県内4カ所(南会津町、喜多方市、須賀川市、福島市)で生活する転勤族妻であり2児の母親。趣味は書道、刻字。



tenten という名前に込めた思い



福島に転入したばかりのあの頃の私にとって「転(ten)入」「転(ten)勤」というワードはネガティブワードでした。それらによって感じた孤独・不安・焦り。しかし、その辛い時間を過ごし、経験したからこそ同じ境遇の女性たちの課題が見えてきました。

福島に転入して15年が経過し、地域とのつながりも徐々にできてきた今、今の私ならそういった女性達が暮らしやすい福島を作れるのではないかの思いを持って始めた活動です。

活動を始めて、たくさんの女性達の笑顔を見ることができ、またそういった女性達のパワーも感じることで、私にとって「転入」「転勤」はポジティブワードに変わりました。

『炎い「転(ten)」じて福となす』。そんな活動に育てていきたいです。

福島県の転入者に関するデータ

① 福島県への転入者数(令和3年)

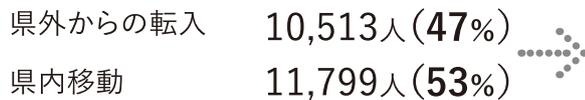


転入者の約半数は女性

〈参考〉令和2年度福島県の定住・二地域居住世帯数723世帯

県で把握してる移住者の約23倍の人が転入している(一世帯3人とした場合)

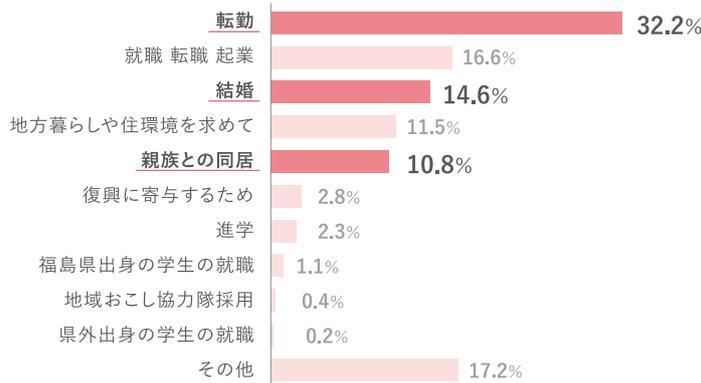
② 転入女性の県外/県内移動者数(令和3年)



県外から転入する人は約半数
面積が大きい福島県は
県内移動も多い

①、②「福島県現住人口調査月報(令和3年1月～12月)」から算出

③ 転入した理由

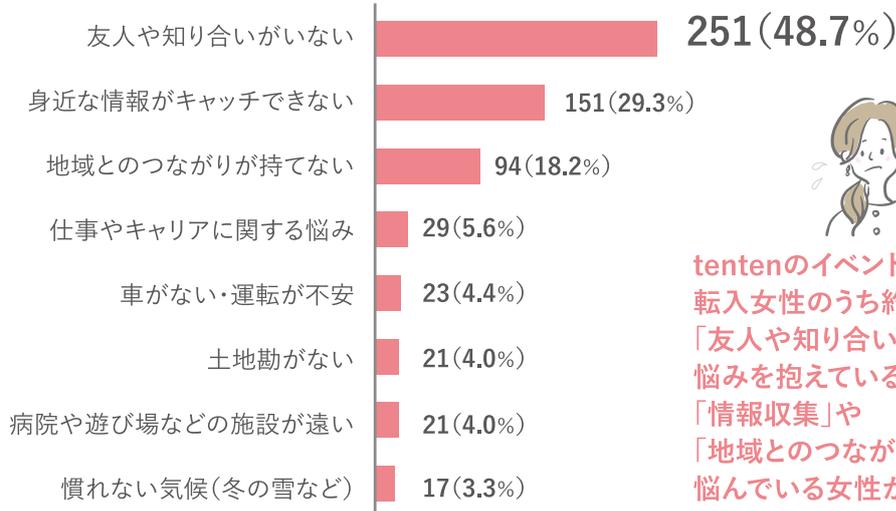


「転勤」や「結婚」
「親族との同居」など、
純粋な移住ではなく、
何か理由があって転入する人が
過半数を占めている。

出展:平成30年度福島県UIターン実態調査 ※複数回答可

転入女性の悩み

tentenのイベントに参加してくれた転入女性のべ515人に対するアンケート(複数回答可能)



tentenのイベントに参加してくれた
転入女性のうち約半数が
「友人や知り合いがいない」事に
悩みを抱えている。
「情報収集」や
「地域とのつながりが持てない」事にも
悩んでいる女性が多い

Vision

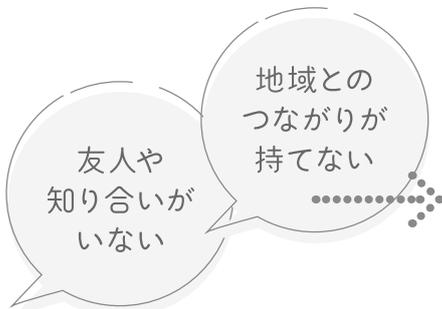
女性が地域や
社会とつながり、
いきいきと自分らしく
暮らせる社会へ

Mission

転入女性の
悩みを解消しつつ、
その強みを活かして、
地域とwin-winの
関係を構築する

事業概要

転入女性の悩みやニーズに対応した取り組みを行っています



① 仲間や地域とつながるキッカケづくり

- 転入女性の座談会「tenten cafe」の開催
- 地域素材を使ったワークショップ「WELCOMEワークショップ」の開催
- 地域を知り、まちの人とつながるための街歩きツアー「まちとつながる旅」の開催



② 自分らしく働くキッカケづくり

- 転入女性のスキルを活かした仕事や在宅ワークの受託
- お仕事探しサポートサービス
- 地域資源を活かした雑貨ブランドの運営



③ 暮らしの情報発信

- 転入女性目線で福島の暮らしの情報を発信するWEBメディア「tenten fukushima」の運営
- 一目でわかる地域名マップ「tenten map」の制作



④ 情報発信の場づくり

- 県産品ギフトショップ兼移住情報ステーション「ent」のプロデュース管理



⑤ コミュニティづくり

● Facebook非公開グループ・公式LINEの運営

⑥ 個別のフォローアップ

- 人や場所の紹介・引き合わせ、相談に乗る
- 既存イベントやサービスの紹介等

① 仲間や地域とつながるキッカケづくり

転入して知り合いがない女性や地域の情報を入手し辛い女性達を対象に、仲間づくりや情報交換をする場、地域を知る機会を作っています。私たちはファシリテーションで入り、参加者が何を求めてその場に来られたのかを引き出し、参加者の気持ちに共感し、必要な情報を提供するようにしています。また、参加者同士の繋がりを作りやすい環境も作るように心がけています。



転入女性同士の仲間づくりと情報交換を目的にした座談会。毎回6～10名を募集。インターネットに掲載されていないような病院・幼稚園/保育園/学童・塾・グルメ情報などの地域情報を交換。似た境遇の参加者がそれぞれ持つ情報や経験をシェアすることで、生活や仕事における悩みの解決の糸口が見つかる場になっています。参加者のなかには、「ママ」や「妻」という立場ではなく「自分」としてつながる場がほしい」というニーズも多く、お子様連れNGの「大人会」も開催。



福島の素材を使ったワークショップを複数回連続同じメンバーで実施することで、楽しく地域のことを学びながら仲間づくりを行います。ワークショップの講師は地域で活動するキーパーソンに依頼。ワークショップ講師と参加者の繋がりも生まれます。

ワークショップ例

- 福島の花桃を使ったハーバリウム作り
- 福島の果物で起こした酵母でパン作り
- 二本松の上川崎和紙でを使って小箱作り



転入女性に住んでいる地域のコアな魅力を知ってもらうための街歩きツアー。一人では行きづらいけどみんなと一緒にならノックできるお店を紹介。地域と繋がることで、その地域に自分の居場所ができ、より地域に愛着を持った暮らしをしてもらうきっかけを作ります。そこから地域活動に参加したり、地域で買い物してくれる人が増えることで地域活性にも繋がられたらと考えています。

※「まちとつながる旅」は全国の転勤族を支援する(一社)TENKIN-LABのプログラムです。tentenではTENKIN-LABの協力を得て実施しています。

2 仕事づくり

▶ 転入女性のスキルを生かした仕事や在宅ワークの受託

スキルと職歴、様々な経験、そして何より働きたいと意欲を持った転入女性に対し、それぞれのスキルを活かした仕事をプロジェクトベースでtentenが窓口となり受託。また転職や子育て介護などの理由で定職に就きづらい女性たちに対し、データ作成などの在宅ワークを受託し、就職という形にとられない働き方の選択肢を提供しています。

ライティング

Webライター講座を受講し、執筆経験を積んだtentenライターがライティングします。

実績

- 福島民報情報ナビTime内コラム「転入女性のtentenだより」掲載(月1回)
- アポロガス広報誌「せっかくども」コラム
- 福島県移住ポータルサイト「エフステ」移住者インタビュー記事作成

デザイン

デザイン業界で勤務経験のある転入女性が名刺やチラシのデザインを行います。

実績

- 一般社団法人Mother Tree団体パンフレット
- 一般社団法人Bridge for Fukushima社会課題解決プログラム、インターンシッププログラムの活動報告書作成

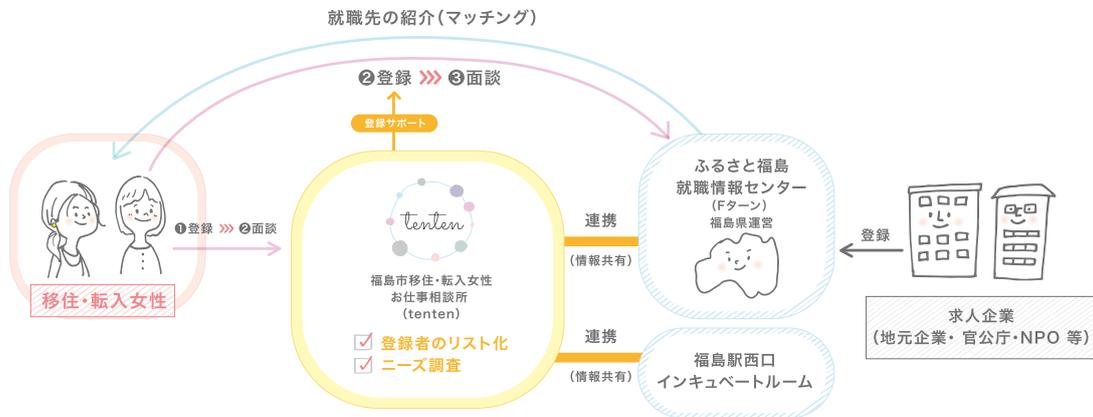
データ作成

実績

- (株)ハウスコム(東京都)から提供されるマンション等の間取り図を専用ソフトを使ってデータ化
→在宅ワーカー 4名(2022.3月現在)

▶ お仕事探しサポートサービス

転入を機に離職し、新しく転入した福島で仕事を探す転入女性のうち「前職を活かした仕事がしたいけどどうやってみつけたらいいかわからない」「子育て中で、頼れる両親が近くにいないので働くことを躊躇している」「通勤でいつまで福島にいるかわからない」という方からヒアリングを行い、福島県就職情報支援センターや福島駅西口インキュベートルームなど適切な機関に繋がります。



▶ 地域資源を活用したオリジナル物産ブランドの展開

他県の方に紹介したくなるような福島の地域資源を活用した商品開発を、よそもの目線、女性目線、母親目線で行っています。商品の作り手には通勤族や子育て中の方など定職に就き辛い転入女性になっていただき、社会と繋がるきっかけを作っています。

bel * fonte
f u k u s h i m a



会津木綿や尾瀬の鹿革を使ったお土産ブランド

ははとはれのひ
はははのはなし
hahaha

会津木綿と刺し子を取り入れた親子リンクコーデブランド



③ 暮らしの情報発信

▶ 福島の暮らしの情報を発信するWEBメディア「tenten fukushima」を運営

観光情報ではなく転入女性目線で「自分たちが転入前に知りたかった情報」・「転入後の福島の暮らしが楽しくなる情報」・「実際に福島に転入した女性へのインタビュー」などリアルな暮らしの情報を発信しています。転入女性から独自にライター（tentenライター）を養成し、令和3年4月現在13名のライターが交代で記事を執筆しています。tentenライターは、ライター講座でライティングの基礎的な知識を習得しtenten fukushimaでOJT（オンザジョブトレーニング）を積みます。



記事の例（閲覧数上位のもの）

- 寒冷地ビギナー必読！福島の冬の運転で知っておきたい4つのポイント
- 毎日の買い物はここで決まり！福島市の人気スーパー特集
- 妊娠中の転勤・引越しが決まった！出産前後の6つの工程を解説



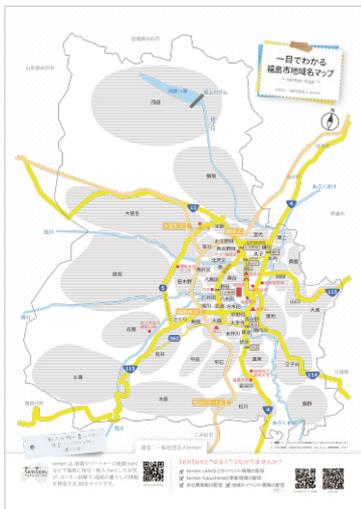
ライター講座を実施して、基本的な知識を身につけてもらいます。



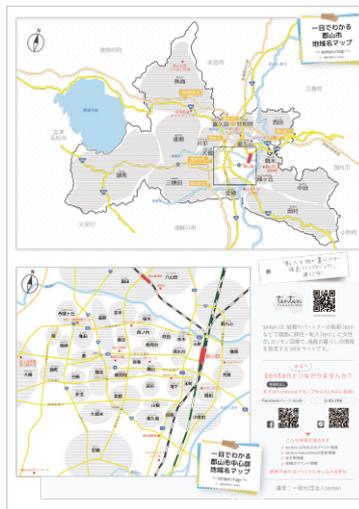
tentenライターのメンバー

▶ 一目でわかる地域名マップ「tenten map」の制作

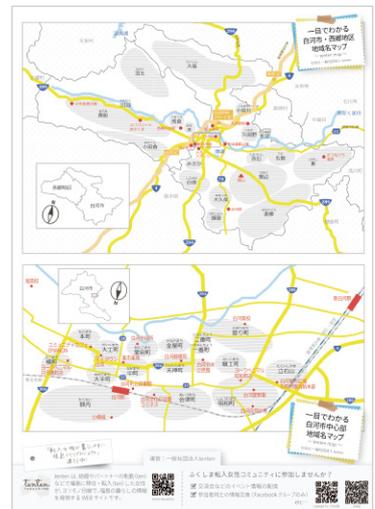
tenten mapは日常会話で使われる地域名、そして主要な道路、河川、ランドマーク、交差点をざっくりとA4・1枚にまとめた地図。初めての土地は地理が全く分かりませんが、tenten mapを見ると、大体の地理を把握して、土地勘を掴むことができます。土地勘を掴めると、生活しやすさが格段にアップします。転入者である私たち自身がこういう地図が欲しかったというものを形にしました。2022年4月時点で、福島市版、郡山版、白河・西郷版のtenten mapがあります。



▲ 福島市版



▲ 郡山版



▲ 白河・西郷版

4 情報発信の場づくり



▶ 県産品ギフトショップ 兼 移住情報ステーション「ent」のプロデュース・管理

福島を知る入口(entrance)として、福島の暮らしの中で生まれた商品を取り扱った福島の新しいギフトショップ「ent」のプロデュースと管理を行っています。ヨソモノ・女性目線を活かして、思わず県外の家族や知人にあげたくなるような福島県内の洗練された商品を販売し、県産品の情報発信をしています。また、転入女性がいつでもこれる場所として福島県の「ふくしま移住情報ステーション」にも登録し、気軽に福島の情報を入力できる場でもあります。スタッフも全員転入女性なので、気軽にコミュニケーションを取ることができます。



5 コミュニティづくり

▶ Facebook非公開グループ・公式LINE「ふくしま転入女性コミュニティ」の運営・管理

転入女性たち同士、また転入女性とtentenスタッフがゆるく繋がりを持ち続けられるツールとしてFacebook非公開グループと公式LINEを開設し管理しています。tenten cafeなどのイベント情報、tenten fukushimaの更新情報、暮らしが楽しくなるイベント情報、お仕事の求人情報などを発信。tentenスタッフとも気軽にメッセージをやりとりできる環境を作っています。



登録者数(2022年3月末現在)

Facebook非公開グループ	309人
公式LINE	330人



6 個別のフォローアップ

転入女性の悩みや新天地でチャレンジしたいことなど個別に相談に乗り、地域の適した人や場所を紹介し、引き合わせを行ったり、既存サービスの紹介などを行っています。転入女性が福島でやりたいことを実現し、地域プレーヤーになる過程に、想いを理解し共感しながら、きめ細やかに寄り添います。

フォローアップ例(1)

子供向け英語リトミック教室を転入前の地で開校していた方が、新たに福島で開校したいが会場を見つけられないと相談を受け、地域の子育て支援団体を紹介。その団体が管理する施設で教室の開校が決定。

フォローアップ例(2)

宮城県出身のイラストレーターの方が、福島で防災をテーマにしたイラストの展示会を開催することが決定。その一環で防災ワークショップの実施について相談を受け、女性向けの防災ワークショップとして共催することに。告知などイベント開催のノウハウを活かしてフォロー。

転入女性の変化 と tenten事業の関係性

転入女性の変化

tenten事業

友人・知人がいない 孤独

全く知らない 土地に住む不安

仕事に対する 悩みを抱えている

tentenを知る

知り合いができる

仲間とつながる

地域のことを知る

心が安定する

共感・相談できる 仲間ができ 刺激を受ける

福島に興味を 持つようになる

マインドが変わる

福島での暮らしを 楽しむようになる

福島の良い所を 探すようになる

視点が変わる

行動が変わる

行動を起こす

- ・仕事
- ・ボランティア
- ・情報発信
- ・プロジェクトの立ち上げ etc

地域に愛着を持つ

居場所ができ根付く

県民という 自覚が芽生える

定住

地域の一員として 自分らしく いきいきと生活する

地域プレーヤー

転出

何らかの形で 福島との関りを 持ち続ける

- ・福島の現状や 良さを転出先で 伝える
- ・転出先で tentenを 広める

関係人口

リアルな 情報発信者

福島モデルの 普及員

3 暮らしの情報発信 「tenten fukushima」「tenten map」

4 情報発信の場づくり 「ent」

入口となる 場をつくる

1 仲間や地域とつながるキッカケづくり 「tenten cafe」「WELCOMEワークショップ」「まちとつながる旅」

つながる キッカケをつくる

3 暮らしの情報発信 「tenten fukushima」「tenten map」

4 情報発信の場づくり 「ent」

暮らしが 楽しくなる 情報を届ける

2 自分らしく働くキッカケづくり

- ・転入女性のスキルを活かした仕事や在宅ワークの受託
- ・お仕事探しサポートサービス
- ・地域資源を活かした雑貨ブランドの運営

自分らしく 働く後押しをする

6 個別のフォローアップ

人や場所の紹介・引き合わせ、相談に乗る 既存イベントやサービスの紹介等

次のステップへ寄り添う

5 コミュニティづくり (FB非公開グループ・公式LINE)

負担なくゆるくつながり続ける

これまで4年間の活動で出会った転入女性の変化を実話を元にサンプルストーリーにまとめました。

地域プレーヤー

Yさん(30代後半)

東京都出身。元SE。旦那さんの転職を機に、2010年に福島市に転入。
転入後は大学広報補佐に5年間従事し、妊娠を機に退職。



子育てに専念していた時に、ママ友からWELCOMEワークショップの募集を教えてくださいました。すでに福島市に6年住み、ママ友もいたYさんは、孤独や不安を感じているわけではありませんでした。「そのころは色々な託児付きイベントに出向いていました。WELCOMEワークショップも実は託児狙いで申し込んだんです。」このWELCOMEワークショップに参加したことを機に、tentenのSNSに登録し、tentenからの情報をキャッチするようになります。

そんな中、Yさんの目に飛び込んできたのは「ライター講座参加者募集」の文字。仕事を辞めて子育てだけの日々で少し物足りなさを感じていたころでした。もともと文章を書くことが好きだったYさん。「ライターだったら子育てしながらできるかもしれない」と、迷いなく申し込みました。「絶対にライターになるんだ!」という強い意気込みはないものの、新しい挑戦をはじめます。実際にライター講座を受けて、「自分にできるだろうか」という不安を感じつつも、ライター講座を受ける条件であった3記事を書くことに一生懸命取り組みました。

いくら文章を書くことが好きでも、ライターを仕事にするのは難しい。少し記事を書くことを休んだ時期もありました。しかし、ライター講座受講してから2年後、下の子が幼稚園に入園したのをきっかけに、本気でライターを目指すように。

「もう子育てを理由にできなくなったんです。何か仕事をしないとと思いました。」

そのころにはすでにtenten fukushimaのサイトには自分のポートフォリオができていました。tentenで開催したクラウドソーシングセミナーにも参加したYさんは、クラウドワークスに登録し、自分でライティングの仕事を取りに行くようになります。tentenで基礎を身に着けていたYさんは、クラウドワークス経由で記事を何十本も書き始めます。

そんな時、tentenから「福島市の観光サイト『福島市観光ノート』でライターを探しているからチャレンジしないか」と声をかけられました。どれくらいのレベルが求められるか分からないけど、学べることが多そうと思い、こちらもチャレンジします。分からないことは先輩ライターさんにも聞きながら、取材のアポ取りや記事執筆のスピード感を求められる環境で、どんどんライターとしてのスキルを身に着けていきます。

福島市観光ノートのライターになったことで、福島の地域の人と関わる機会が一気に増えたYさん。取材を通じて色々な活動をしている方、頑張っている方がたくさんいることに気づきます。その人のバックグラウンドや思いを聞くことができ、「だったらあの人を紹介してみよう」と、人と人を繋げる活動もできるように。書くだけではないライターの醍醐味も感じています。

「これまでは福島に『ただ』住んでいました。情報を発信する側になって初めて見えてきたことがたくさんあります。今は、私にできることで福島で頑張っている人たちの助けになりたいです。」とYさんは目を輝かせています。

「tentenがなかったら今の私はいない。」と言ってくれたYさん。tentenのライター講座とクラウドソーシングセミナーを受けたことはひとつのキッカケに過ぎません。そのキッカケを活かして、さらに自分から動くことで、どんどん前進していきました。そんなYさんだからこそ、tentenもライターのお仕事を安心して紹介できました。福島市観光ノートのライターになったことで地域に入り、地域のことや人を知り、地域に対する見え方が変わりました。ただの住民から、「ヨソモノ視点を持ちながら、福島の情報を外部に発信する」という居場所と役割を見つけ、これからも磨きをかけていくYさんの今後の未来が楽しみです。

地域プレーヤー

Aさん(30代後半)

東京都出身。東京勤務時に同僚であった農家の息子さんと結婚するために、2018年に二本松市に転入。代々続く旦那さんの家業に携わっている。



地方に移住することについては全く抵抗がなかったAさん。

同居だったこともあり、孤独を感じたりすることはありませんでしたが、田舎暮らしの大変さを実感します。まずは近所付き合いと田舎の風習。消防団や地区の運動会など昔から続く活動を強制的にやらされることに疑問を抱きました。まだ子供もいなかったため、頻繁に東京にも帰って来たこともあり、寂しさを感じることはありませんでした。でも、同じように農家に嫁ぎ、同居をしている人に色々相談したりしたいなという思いはありました。

tentenのことを知ったのは、福島に来て3年目の時。WELCOMEワークショップの講師依頼の相談を義父が受けたことがきっかけでした。義父が「そういえばうちの嫁も東京から来たんだよね。だから講師は同じ立場の嫁がやった方がいいね。」と紹介してくれたのです。それがキッカケとなり、tentenのサイトを初めて見たAさん。「もっと早く知っていたら、早く調べていたらよかった!」と思いました。そして、同じ立場の人に会えるかもしれない!という期待を抱き、WELCOMEワークショップには参加者としても参加することに。

どんな人がいるのかな、お友達できたらいいなとワクワク感を覚えました。

WELCOMEワークショップには、同じように農家に嫁いだ方や、有機農業をやりたくて東京から移住した若い女性、そして地域資源を使ってお茶の開発をしている女性など共通点のある女性が集まっていました。初日の自己紹介で、みんなの経歴や興味などを詳しく聞き、一気に親近感が湧いたAさん。ワークショップの間も会話が止まりません。もっともっと話したい、そんな気持ちになりました。

WELCOMEワークショップが終わった後、参加者とSNSで繋がり、そこで二本松の農業女子会を紹介してもらいました。すぐに入会し、二本松で農業を頑張っている女性たちと出会います。中には加工品を作っている方もいて、いずれは加工品にもチャレンジしたいと思っていたAさんにとって、良きアドバイザーとの出会いでした。県産材料を使った薬膳茶を開発したいという参加者ともつながり、いずれAさんが材料提供をすることが決まりました。

「WELCOMEワークショップがきっかけとなって、地域につながりが増えました。ちょうど家業も新しい事業や取組をしたいなと思っていて、人との出会いでそれが現実的になってきた感覚です。」

家業を手伝うようになってから、色々テコ入れをしたい、自分としての取組も始めたいとずっと思ってきたAさん。同じ地域で頑張る女性たちとの出会いで、それが早くも現実として動き出しそうになっています。出会いによって、歯車が一気に回り始めました。「もっと早くtentenを知っていたらよかった」というように、動き出すには時間が必要なのではなく、キッカケが必要なのだということを改めて感じさせてくれたのがAさんの例です。これからAさんは地域のキーパーソンとなり、転入してくる女性たちのよき先輩になることでしょう。

関係人口

tenten普及員

Tさん(30代前半)

岐阜県出身。名古屋で仕事をしていた時に結婚。同時に旦那さんの福島異動が決まり、2020年に仕事を辞めて福島市に転入。



岐阜と名古屋を離れたことがなかったTさん。福島県がどこにあるかも分からない状態での引っ越し。福島行きの新幹線の車内。隣で旦那さんは寝てしまいましたが、Tさんは不安で寝る気にはなれず、スマホで「福島、転勤」「福島、子なし夫婦、コミュニティ」など必死に検索。そこでtenten fukushimaのWebサイトを見つけました。イベントの開催情報なども更新されていたことから「ちゃんと活動している団体だ!」と思い、新幹線の中からFBコミュニティに登録し、tentenスタッフにメッセージをしました。すぐに代表の藤本からの返信があり、繋がっている人がいるというだけで福島に来る安堵感が芽生えました。

福島市に転入してしばらくしてから、tenten事務所に実際に訪問。そのころは毎日家でNetflixを見る日々が続いていました。久しぶりに夫以外の大人と話す時間。福島での不安や仕事に対する悩みを相談しました。「いつかは、できるだけ早く岐阜に帰りたい。だから今はどこでも仕事ができるように医療事務の資格の勉強を進められたんです。」でも、福島に来てから、東日本大震災後のイメージとはまるで違う福島の様子や、食べ物の美味しさに驚き、他県の福島を知らない人たちに教えてあげたいという想いも芽生えていました。そんな想いも打ち明け、藤本と話しているうちに、自分がやりたいことは医療事務ではない、もっと地域に、福島に関わるのだと気づきます。

福島で福島に関わる仕事を、藤本からFターン(福島県就職情報支援センター)への就職相談を提案され、早速登録。後日、Fターンのスタッフとの面談をし、タイミングよく福島県の地域振興を行う地方団体への就職が決定。地域の事業者さんと仕事でかかわる機会もできました。

tentencafeでは土曜日開催の大人会に参加。まだ子供がいないTさんにとって、子育て以外の話ができる大人会はとても参加しやすい会でした。大人会では、自分のこれまでのキャリアやこれからやりたいことを話す前向きな人たちに出会いました。自分も岐阜から福島に来て特別な存在だと思ってたけど、もっともといろんな地を転々として大変な思いをしている人たちがいることを知ります。さらに、それでもやりたいことを持ち前向きにいる人たちでした。自分は特別じゃない。自分にしかできないこともあるはず。飯坂温泉から依頼を受け、tentenが開催したモニターツアーにも参加。温泉街に対してソトから目線の意見を求められたことで、転入者だからできることがあり、転入者だからこそその目線が価値になることにも気づきました。いつの間にかその思いはtentenの活動を私もやりたい!という想いに変わっていきました。

今は夫の地元である新潟にいつか引っ越して、tentenの活動を新潟で転入者として取り組みたいと考えています。「自分の地元である岐阜や名古屋に戻るより、新潟で転入者として動いた方が楽しいかなと思って。」と考え方まで変わりました。そのためには、今いる福島で、tentenの活動をもっと身近に勉強すること、そして発信力を身に着けたいと考えています。現在の仕事でも、自ら団体の運営するサイトの広報を担当したいと提案し、その案が採用され、雇用期間の延長も決まりました。先を見据えながら、今福島でできること、福島でしかできないことに取り組むと決めたことで、Tさんの中で福島の生活が価値あるものに変化しています。

「tentenに救われたから自分もこの活動がしたい」というだけでなく、「転入者という存在に価値があり、この価値を事業化したい」という想いを持ち、地元ではなく、夫の地元に移住したいと考えるTさん。最初にtentenの事務所に不安げに訪れたときから、目の輝きや強さが変わりました。今は福島でできることを!と自分の価値を最大化し、ヨソモノとして福島を発信することに全力を注いでいます。発信は知ることから始まります。福島を深く知ること、Tさんはこの先も、転出してからもずっと福島と繋がり、福島を発信し続けてくれるでしょう。転出後もtentenはTさんとの関わりをずっと持ち続けていきます。

団体概要

名 称 一般社団法人 tenten
所 在 地 〒960-8041 福島県福島市大町2-18石屋小路ビル2F
代表理事 藤本菜月
連 絡 先 TEL 024-529-5895
FAX 024-529-5896
mail info.tenten.fukushima@gmail.com
WEBサイト <https://tentent.info/>
設 立 2020年10月8日



tentenスタッフ一同